

## 「哲学する」って、どういうこと？

数年前、当 HP を見たメル友から「相変わらず、哲学してるね。」と云われたことがある。何のことがさっぱり分からないで今まで来た。

最近、書籍広告が目にとまり、何でも手っ取り早く知りたいだけに、高校生向きなら自分にも「哲学」を理解できるかなと、高校生の哲学の授業で使われ、フランス国内でもベストセラ - となった、一人の教師著の「反 哲学教科書 - 君はどこまでサルか? - 」を、ようやく読み終えた。

というのも、最初から「反 哲学教科書で、反哲学 教科書ではない。」の記述からして??

更に、聞いたこともない哲学者の名前と短い論調も多い。哲学事典が欲しいような語彙も多く、悲しいかな、読むというより気づけば殆ど字面を追っていることもしばしば。校則の問題から国法の問題に絡めての解説のように、高校生向きに工夫はされているが...

書籍の帯に「これを読んでも、まだ哲学がつまらなかつたら、あきらめろ！」とあるが、あきらめ～～めた！

著書に曰く、「教科書というのは、何があるのかよくわからず雑草が生い茂っているように見える哲学の土地を、開墾を促すものだ」、「私の授業が、君たちにとって、世界を批判的に解読する機会になって欲しい。本書の願いにはもう一つ、君たちが、現実というものの輪郭や本質についてより確かな理解を得て、自分の生き方に意味を見だし、人生の目標をもてるようになることだ」、「哲学は、自分の人生、考え、生き方、世界観など、いつも互いに照らし合っているそれらのものを見極めるように促している」という。

それにしても、大学入学資格試験なだけに、これを高校最終学年で学ぶというのだから、フランスの高校生は凄い！その試験とて、例えば「人は統治される必要があるだろうか？」というような3つのテ - マから一つを選び、トイレ以外の退室も普通は認められず、持ち込み一切なしでの4時間かけての論述試験で、評価も数人の教師が当たるとか。これに挑む高校生も凄いが、大学入学資格として哲学的思考試験を課すフランスという国も凄い！日本との文明のこの差は、どうしようもなく大～きい!!!

著者の教師は優しい。教科書の最後に、論述試験の構成の仕方、書き方までこと細かにアドバイスしている。それでも、4時間かけての白紙の用紙に論述するとなると、やはり日頃の哲学的思考が身につけていないと無理だろうなあ。